

県内総合

漆の擦り込み体験

大子 作家が作品解説も

「日本の伝統文化を国産漆の現場から学ぶ」をテーマに、漆の体験セミナーが23日、大子町で始まった。参加者は木皿に漆を擦り込んだり、光沢ある漆器を見て、国産漆の理解を深めた。

セミナーは町内外から約40人が参加した。漆の植樹などに取り組みNPO法人「麗潤館」事務所で、ナス

形の木皿を紙やすりで磨いた後、漆の擦り込みに挑戦。かぶれないように注意しながら、丁寧に擦り込み、拭き取り作業に専念した。

漆器を展示・販売する「器而庵」では、漆作家の辻徹さんが、作品の特徴などを説明。参加者は作品に目を凝らすなどして、漆器に親しんだ。川崎市の小室



木の皿に漆を丁寧に擦り込む参加者＝大子町大子

知香さん(38)は「擦り込みは緊張した。漆器ができるまでの工程が分かり、価値を再確認した」と話した。

体験前には、町文化福祉会館で、東京農大地域環境科学部の宮林茂幸教授が講演。大子産漆を「透明度が

高く、つやがあり、さらさらしている」と説明した後、「漆の里として、漆アカデミーを創設できないか」と提言した。

24日は漆かき現場の見学、漆の木の管理作業などを行う。(蛭田稔)

県内の情報なら「月刊みと」におまかせください!

力合わせテント張ろう 取手 児童400人がキャンプ



テント設営に汗を流す子どもたち＝取手市柗木

取手市内の小学生がキャンプを通して交流する恒例の子ども会リーダーズ・サマーキャンプが23日、同市柗木の市立藤代スポーツセンターで始まった。

サマーキャンプには小学1～6年の約400人が参

加している。4年生から6年生は、ボランティアと協力して宿泊用テントの組み立てやかまどの設営に挑戦。その後、協力して夕食のカレーライス作りに取り組んだ。

1年生から3年生は、カ